

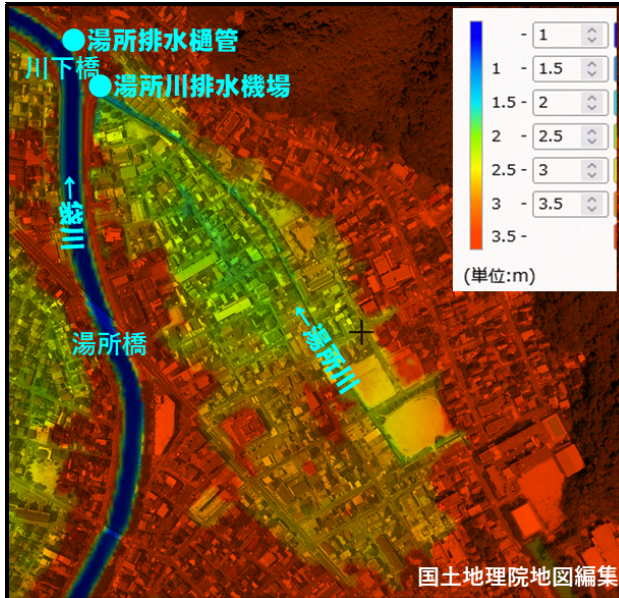
# 城北防災だより

2021/10/22

48号

城北地区防災対策協議会  
事務局：城北地区公民館

## 青葉町の治水(袋川・湯所川)について



左図は、湯所川と袋川の合流付近の標高で、湯所川沿いに地盤が低くなっています。湯所川は、水源を本陣山にもち、流域面積1.4km<sup>2</sup>、流域延長2.3kmの袋川に合流する支川です。

昭和50年代には3度被災しました。これまで、内水氾濫を防ぐ湯所排水機場(ポンプ排水)と、袋川の水位上昇時に逆流を防ぐ排水樋管によって被害を最小限に食い止めてきました。

梅雨に入る出水期には、堤防の高さが不足している青葉町1丁目(袋川左岸)に設置される防水板も、越水を防ぐ対策の一つです。



今回、川下橋の下流で「湯所排水樋管ゲート自動化工事」が、はじまりました。

**【工事目的】**(工期:令和3年10月18日から令和4年2月19日の期間、袋川土手右岸の『湯所排水樋管』周辺が通行止めとなります。)

袋川の水位変化による水圧の差で、ゲートを自動で開閉する構造に改修されます。このことにより、洪水時に人為的な操作が不要となり、ゲリラ豪雨などによる急激な水位変化にも対応できます。



排水樋管の操作は、地元の町内住民が委嘱されて『水門等水位観測員』を担ってきました。袋川の水位が上昇すると、住宅側への逆流の恐れが生じます。しかし、ゲートを閉めると、住宅側の水の行き場所がなくなり、住宅地が浸水する危険もあります。担当者は排水樋管に出動し、夜間・休日も含め、風雨のなか長時間、現地にとどまり、操作してきました。責任の重い、大変な役割を担っています。感謝に堪えません。

今回は、複数ある中の湯所側の一基が改修されます。

ところで、これまでも城北地区の浸水被害を防ぐために、国・市がさまざまな対策を講じてきてきました。しかし、近年、気候変動により雨の降り方が変化しており、災害のリスクが高くなっています。

これらを一体利用しても、50年に一度の大雨に際しては、城北地区の床上浸水を防げて【現在のゲート】も、それ以上だと被害を防ぐことはできません。正確な情報を入手して、自分自身や大切な人の生命・財産を守る行動を“マイ・タイムライン”(自分用の防災行動計画)にそってとることが重要です。



【完成予想図】

今号の編集にあたっては、鳥取河川国道事務所千代水出張所(河川管理者:工事全般 ☎0857-28-6229)に協力いただき、たくさんの視覚資料をいただきましたが、紙幅の関係で紹介しきれいません。今後、防災会研修・住民説明会等で活用させていただくことにしています。